

調剤薬局から見た 処方せん電子化について

 **株式会社 EMシステムズ**
System Integrator

開発本部 設計G **田畑 義弘**
主任



株式会社EMシステムズ

概要

- ・創立1980年
- ・資本金15億7,992万円
(平成23年3月現在)
- ・従業員387名
(平成23年3月現在)

主な事業

- ・調剤薬局事務処理コンピュータ開発・販売・保守
- ・医療事務処理コンピュータ開発・販売・保守
- ・ASPを活用したネットワークシステム事業
- ・OA・サプライ品販売

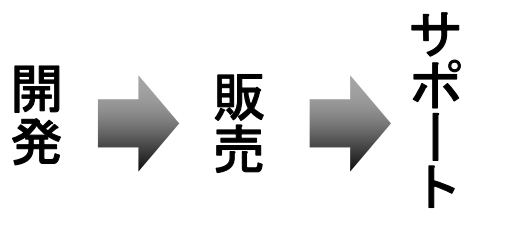


調剤薬局
約13,000件



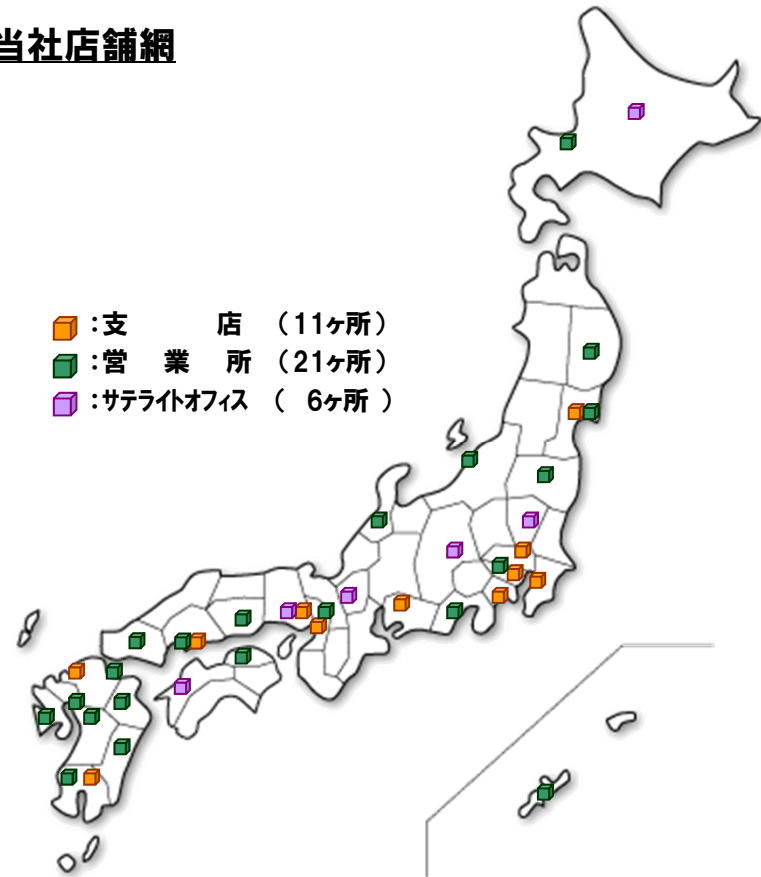
医療機関(診療所)
約400件

EMシステムズ



■当社店舗網

- : 支店 (11ヶ所)
- : 営業所 (21ヶ所)
- : サテライトオフィス (6ヶ所)





調剤薬局での調剤業務

調剤薬局



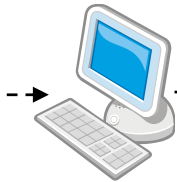
調剤

- 調剤行為
- ・ピッキング
- ・分包機
- ・監査機器

【調剤薬局の課題】

- ・処方受け取り～投薬の時間短縮
- ・服薬指導の充実

処方情報入力



- ・患者情報
- ・処方内容
- ・連動機器
- 制御用情報
- ・加算

処方監査



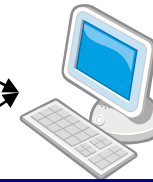
- 各種チェック
 - ・患者情報
 - ・処方内容
 - ・処方入力内容
- ↓
- 疑義紹介



配布物印刷

- ・薬袋
- ・薬情
- ・お薬手帳

最終監査



- 最終確認
- ・薬袋と薬
- ・配布物
- (薬情・手帳)

投薬



- ・服薬指導
- ・会計



【実証実験への参画】

「電子カルテと電子薬歴システムの相互運用による普及促進に資する実証実験」

※電子カルテ=カルテ内容を電子保存するシステム
※電子薬歴=薬局でのカルテにあたる薬歴内容を電子保存するシステム

経済産業省:平成16年度 医療情報システムにおける相互運用性の実証事業

当時の背景

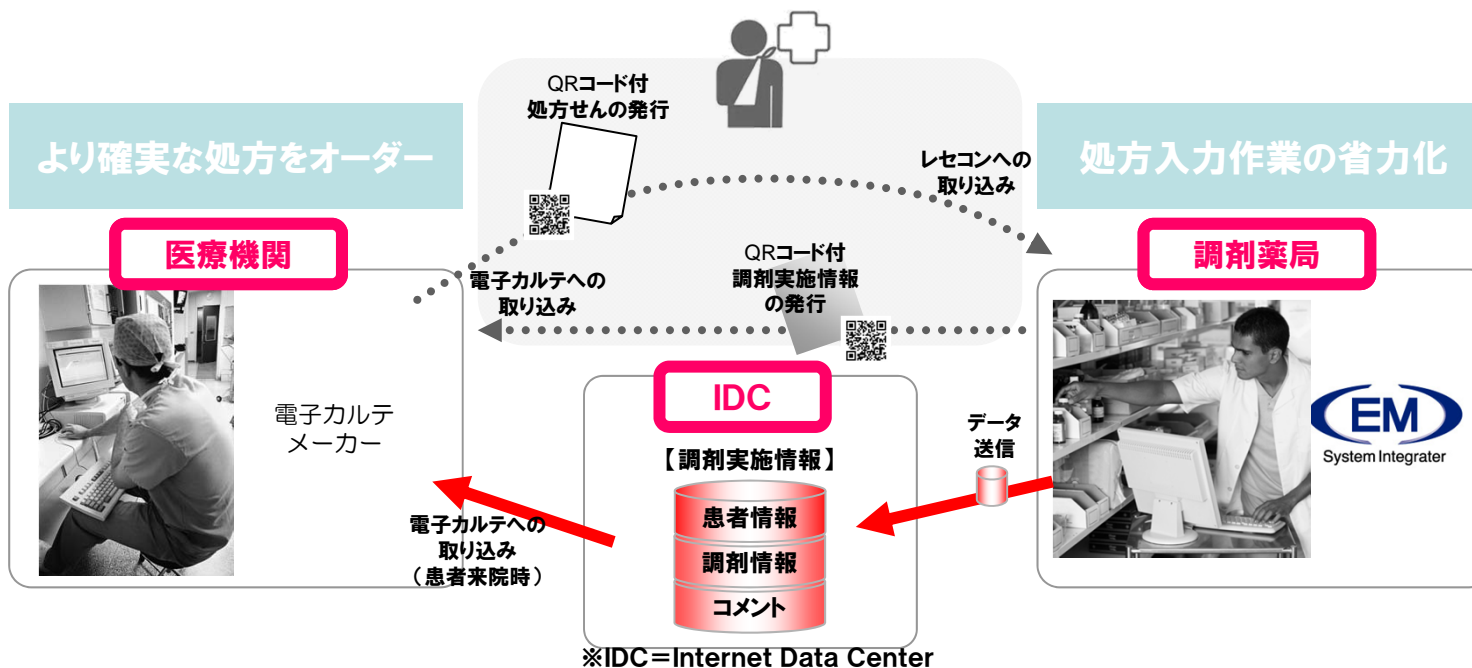
医療現場におけるIT普及の必要性

処方情報などのI/F標準化の推進

医療機関・保険薬局間のシステム連携の要請

2020年までの実現に向けて
具体化

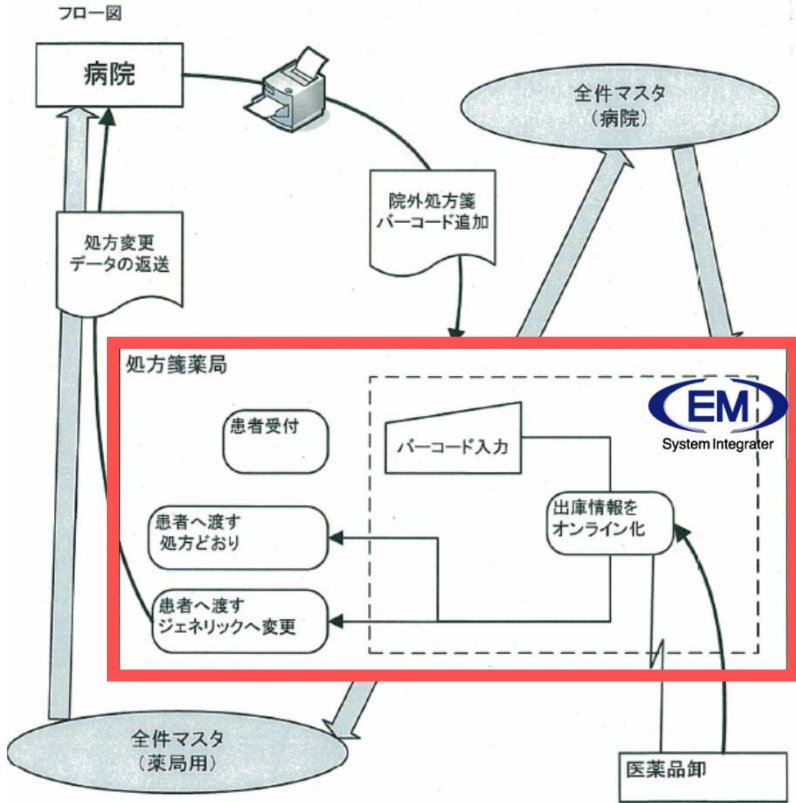
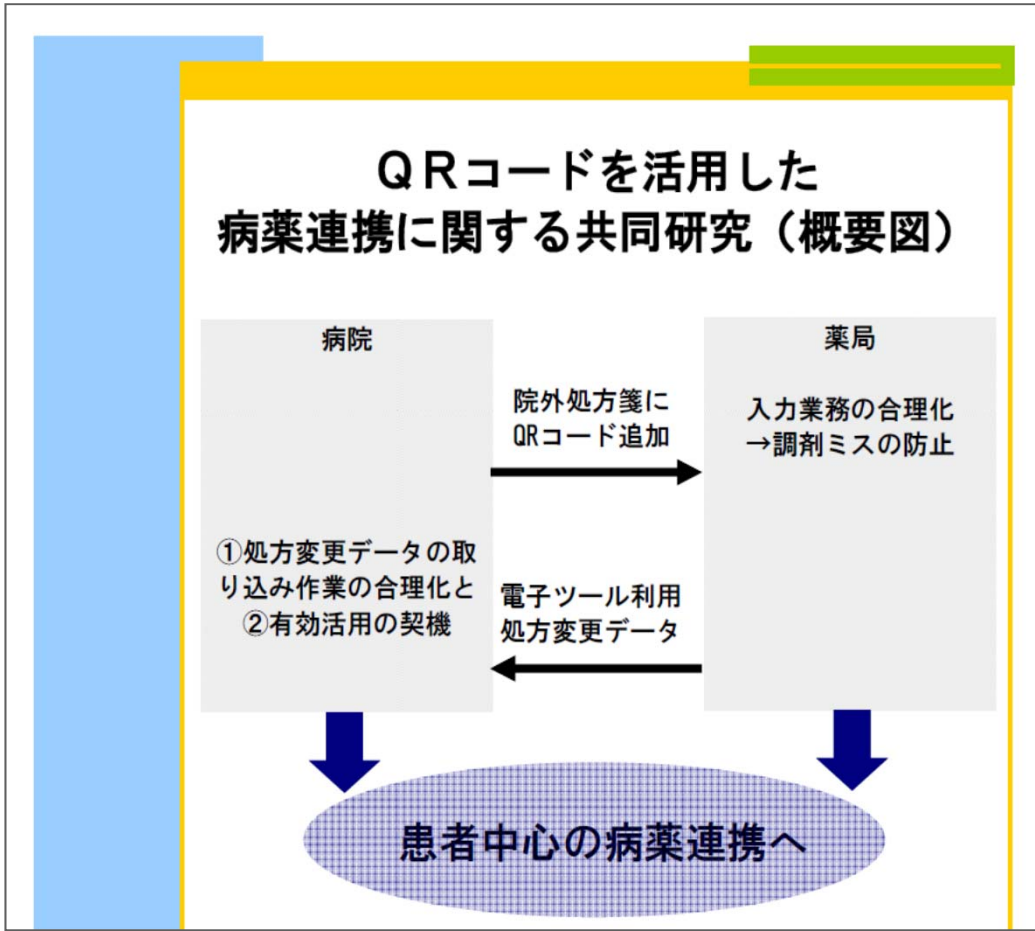
※IT戦略本部『新たな情報通信技術戦略』より





【共同研究の参画】

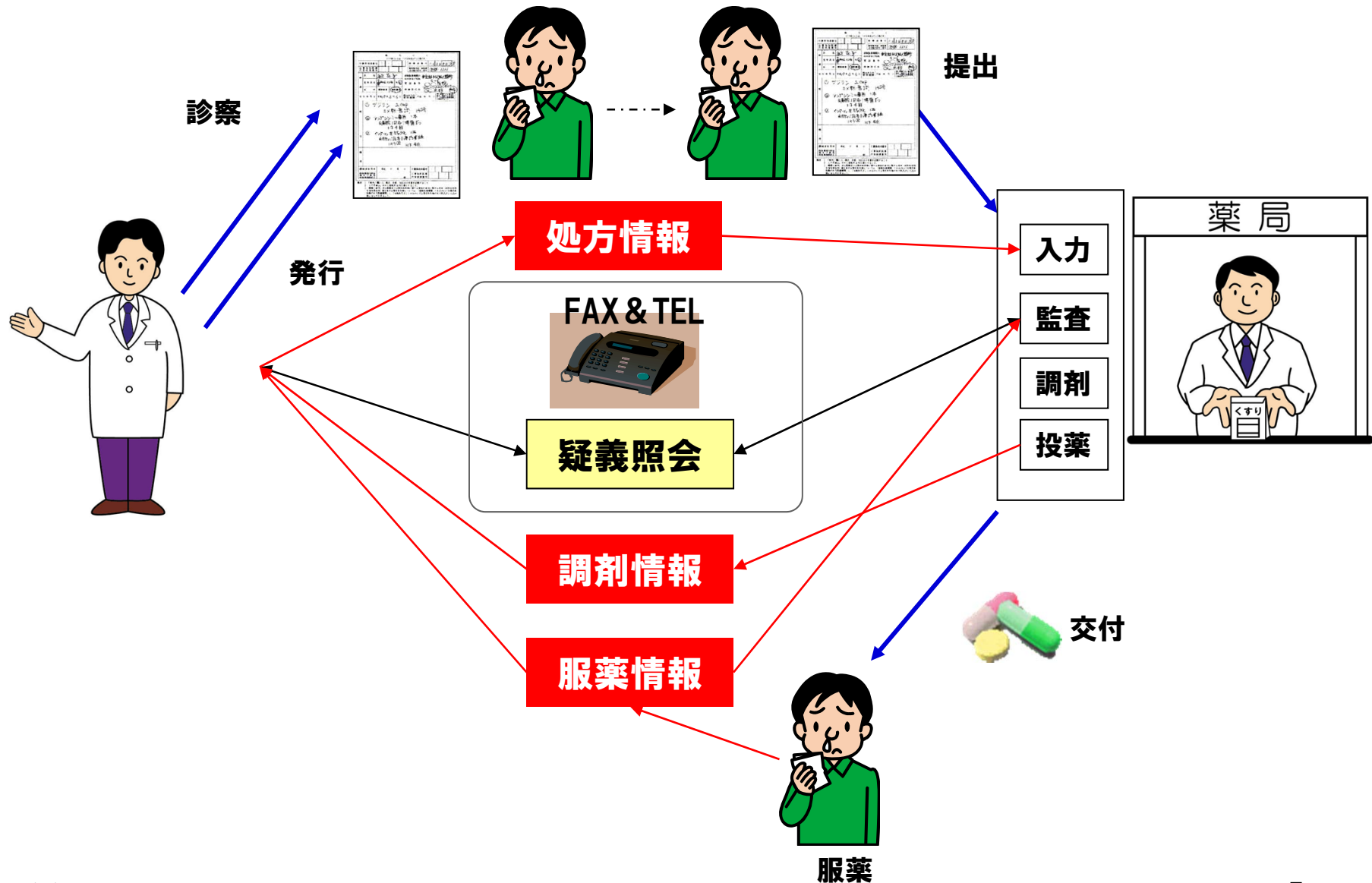
院外処方せんデータ取扱いに関する病薬連携のための共同研究



現在運用中



処方せんの電子化によって変わる処方せん～薬の交付まで





調剤薬局から見た処方せん電子化のメリット

処方せんそのものの電子化よりも、処方情報を電子化すること

処方情報

処方情報入力ミス軽減

処方情報入力負荷軽減

調剤情報

医療機関への情報提供

次回処方せんへの反映

服薬情報

コンプライアンスの改善

患者服用歴の確認

安心・安全な医療の提供
患者サービスの向上

安心・安全な医療の提供
患者サービスの向上

最適な医療の提供



**以上でございます。ご清聴ありがとうございました。
何かご質問 等がございましたら・・・**

